

モデル事業で妊婦健診再開

塩山市民病院 分娩は山梨大などが担当

甲州・塩山市民病院の妊婦健診が6月、再開されることになった。山梨大が産科医を非常勤で塩山市民病院に派遣して妊婦健診を行い、分娩は市立甲府病院と同大付属病院が担当する。健診と分娩を分担するこうした仕組みは産科「セミオーブンシステム」と呼ばれ、今回はモデル事業として実施される。塩山市民病院では2007年10月に分娩を休止、現在は妊婦健診も行われていない。

セミオーブンシステムは、

塩山市民病院は07年10月に分娩を休止してから、婦人科のみの診療となつてい

た。分娩再開を目指していたが、昨年には院内助産再開の見通しが立たないことなどから常勤医が退職。峡東医療圏の甲州、山梨、笛吹3市が県に対し産科医確保などの対策を進めるよう要請していた。

妊婦健診は身近な病院で行い、緊急時の診察などは分娩を取り扱う病院で行うといつもの。妊婦は妊娠中に約14回の健診が必要で、分娩を取り扱う医療機関が甲府市周辺に集中している現状では、通院が妊婦の負担になっていた。

山梨大は、健診のために遠方から通院する移動時間や診察までの待ち時間の負担を軽減しようと、同システムの導入を決定した。

山梨大によると、塩山市民病院には産科医2人を派遣し、非常勤として勤務。市立甲府病院と同大付属病院での健診を希望している妊婦について、毎週金曜日の午前中に妊婦健診を交代で行